平成 24 年 9 月 15 日
北関東移動フォーラム
於：足利学校

中斎塾　北関東フォーラム
平成 24 年度第 7 回（移動フォーラム）

温故知新師 ― リーダーの条件 ―

皆様こんにちは。お暑いところ、又、遠いところからよくお出でを戴きました。有難うございます。

今日のテーマは「温故知新師」です。世間では「温故知新」で知られていますが、温故知新とは「故きを温ねて、新しきを知る。以て師たるべし」で、「温故知新」が指導者の条件であるということを世間様は忘れている氣が致します。師匠になるためには、こういうことをクリアしなければならない、人の上に立って指導をする場合は、こういう条件が要るということについて触れています。

今、政治屋さん達が政争をしています。「まつりごと」とも言えない、浅ましき戦いをしています。代表戦と総裁選ですか。代表者を選ぶのに、その時々によって選出方法が変わる。不思議ですね。指導者になる人達、特に内閣総理大臣になる人達は、内閣総理大臣になったらこういうことがしたい・ああいうことをしたいと一生懸命考えて、メモをとって…という方が嘗ての総理大臣にはおりました。けれども最近は、派閥の力学で総理大臣になったり、青天の霹靂でなったり、どうしても総理大臣と呼ばれてみたいということで図らずもなるといった非常に軽い感じの総理大臣が多いようです。軽い感じの総理大臣であれば特に、指導者の条件として、自分を磨いて磨いて磨き抜かなければならないだろうと思います。

ここにおられる方は指導者の条件を学んでいるわけですから、自分自身を導く、家庭の中を導く、自分の組織体・地域・自治体・国家を導く…という観点で身に付けて戴ければよいと感じます。

論語を教えている先生方は沢山おられますが、その中でも貝塚論語・宇野論語・金谷論語といった先生方の論語が一般的です。今日はここ足利学校でのお話ですから、三人の先生方の解釈についても触れましょう。

例えばこの「温故知新師」について、貝塚先生の解釈は「過去の伝統を考え直して、そ

の中から新しい意味を知りなさい。そうすれば師匠になることが出来る」というものです。宇野先生は「過去を温ねて、それを習熟して悟る。悟り方を教えているのだ」という解釈。過去のことを何度も何度も自分の中で吟味して習熟していく。そうするとはっと悟ることがある。悟らなければ人様にはものを教えてはいけないということです。金谷先生の解釈は一番簡潔で、「古いことに習熟した上で新しいものを取り入れなさい。過去から見直すのでなく、新しいものを取り入れる。そうすることによって師匠になる資格が出来る」というものです。

三人の先生とも解釈の仕方が違います。どれが良いかは、自分自身の波長にあったものを選べばよろしいでしょう。三人の先生方に共通していることは、単なる物知りは駄目、単なる聞き覚えは駄目ということです。誰がこう言った、こう書いてあるということを知っているだけでは役に立ちません。「論語読みの論語知らず」となります。つまり、自分自身の血肉にしなければいけないということを言っておられます。

ちなみに私は渋沢論語が波長にあいますので、実学として論語を学んでいます。渋沢栄一さんは論語の中から自分の血肉にする言葉を選び出し、それを活用して実際の血肉にし、それを生涯実践し続けたところが非常に好きです。

本日はここ足利学校という伝統のある重々しい雰囲気の所でお話しています。東京フォーラムで毎月、湯島聖堂でお話させて戴いております。学びは、進んでくると何処に居ても学べるけれども、場所が変わると、そしてそれが伝統のある場所であればあるほど、何となく背筋を伸ばしたくなるし、目線も遠方を見るようになるし、声も自然と腹から出てくるようになります。ですから場所も肝心だなと思います。

場所ということで少し脱線しますと、大分前になりますが、私が師匠と呼ばせて戴いた木内信胤先生の語録を私と猪瀬常任理事と成川さんという方の三人でまとめて『木内信胤語録』という本に致しました。或る方から、『木内信胤語録』をトイレで読むと非常に頭に入って良い、という話を聞きました。三乗（厠上・馬上・枕上）といって、真剣にものを考えるのに良い場所だといいます。今で言うとトイレの中、電車や車の中、寝床でしょうか。人それぞれでしょうが、頭の中にすっと入ってくる時というのは大体場所が決まっているし、時間も絞られてくるような氣がします。

安岡正篤先生は日頃、俗世間の野暮用に追われて身も心も疲れ果てて家に帰ってくると、本のシャワーを浴びるのだと書いておられました。書斎に入ってご自分の氣に入った書物を手に取ると、尊敬しておられる先生方が「お帰り」と言ってくれる声が聞えるのだそうです。

今日のテーマ「故きを温めて新しきを知らば、以て師たるべし」という言葉は、これから時代をリードしていく指導者としての条件は、歴史を学ばねばならないということです。特に、明治維新の頃、終戦直後を見るがよかろうと思っています。なぜならば文明史的に見て、今の時代は、西洋文明が終わり東洋文明が新しく誕生し発展していく大きな転換期にあたります。その歴史の転換期にあって、今の時代に非常によく似ているのは、明治維新と終戦直後の食べられなかった時代だと思っています。

以前、山﨑幹事のお宅に伺った際、蔵の中に西郷隆盛の檄文がありました。檄文とはチラシです。ちなみに西郷隆盛のチラシには、西郷隆盛のメンバーが政権をとったあかつきには、勉強したくない子供は学校に行かなくてもよろしいとか、税金も今の半分でよろしいなど、今の民主党のばら撒き政策と同じような人の目を引き付けるものが書いてあります。

明治維新の頃の人物について、渋沢栄一さんは『論語講義』の中で色々な批評をしています。三傑については、「特に優れていた。論語で言う器ならずと言える方々は、かの三名であろう。他の方は器である。勝麟太郎も一角落ちる。」と言っています。

河井継之助にみるリーダーの条件

私は今、河井継之助を調べています。当時の資料を調べると、「東の河井継之助・西の西郷隆盛」、「東の河井継之助、西の中岡慎太郎」という言い方をされています。なるほどなあと思いました。というのは河井継之助という人物を調べれば調べるほど、大変な傑物だなと感じます。明治維新の三傑と言われた西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允、一人一人と比べても勝るとも劣らない大した人物がいたものだなと思います。山縣有朋は継之助について、「惜しい人物を亡くした。私が小千谷で河井継之助に会っていれば、長岡での戦いなど起きなかったであろう。日本のこれからに向かって非常に有為な人材を失った。実に残念である」と評価しています。

ちなみに、俗に明治維新の「官軍」「賊軍」と言いますが、当時のものを調べると、東軍と西軍です。品川弥次郎が面白いことを言い残しています。「錦旗の御旗が出て、官軍が一変に官軍になっていった。官軍が官軍として定着し、各大名が頭を下げた。世の大名どもは木戸孝允の権妻さんの買ってきた西陣の帯でこしらえた旗に頭を下げておる。実に愉快だ」という記録があります。何のことはない、木戸孝允の愛人が買ってきた西陣の帯地で

一所懸命錦の御旗をこしらえ宝物殿から恭しく出して担ぎあげたから、大名たちは皆、頭を下げたというのです。木戸孝允が思いつかなければ、どっちにどう引っくり返ったか分からない。人間の機微人情は、そこら辺でもコロっと変わってくるのです。調べてみると、面白いものが沢山出て来ます。

河井継之助という人物を調べると、凄まじい時代の洞察力が窺えます。例えば、継之助は明治維新のはるか前、大政奉還の数年前に「これから男の頭はザンギリ（ザンバラ頭でちょん髷がなくなる）になる」と言っています。おそらく三傑と比べても、一歩先んじて時代を見ていました。それから自分が死ぬ寸前に、傍にいた外山修造に「お前は武士になりたいと言ったけれども止めなさい。これからは武士の世の中はなくなり商人の時代になるから、お前は商人になりなさい」と遺言して亡くなっています。その後、外山修造は大阪の国立銀行の頭取になり、阪神電鉄を創り、色々な会社を興して大阪の実業界の大立者になりました。ですから継之助は時代を洞察して、現実に周りの人々にも具体的なアドバイスをしました。一つひとつ挙げてみると、かなりの能力があった人物だと感じます。

河井継之助は 17 歳の時に王陽明に傾倒して、白木の台に割いた鶏を捧げて王陽明を祭り、自分は長岡藩ひいては日本の国の助けになる人物になるという志をたてました。若い頃の継之助は態度が大きくて、先生に対しても傲岸無礼だったようです。例えば、馬術の先生には、馬は乗れれば良いのであって馬の礼儀作法など知らなくてもよい、という態度で、自分が気に入った先生であれば教わるけれども、気に入らなければ教わらないような若者でした。佐久間象山には自分が写した経本に題字を書いてもらっていますが、その佐久間象山に対しても「素晴らしい知識は持っているが、態度が横柄で気に入らない。私の師匠には足りない」と自分から師匠を見限って、他の師匠を探すといったことをしています。

その中で、継之助がこれだと思った師匠が山田方谷です。山田方谷は継之助の実学の師であり、山田方谷から様々なことを学んで具体的な改革をしています。

山田方谷の備中松山藩は、今の時代で譬えると、20 億円ぐらいの規模の会社が 100 億円ぐらいの借金をしていました。山田方谷が内閣総理大臣になって改革をし、約 8 年間で収入の 5 倍の借金を完済し、尚且つ 100 億円の貯金をしました。その改革によって山田方谷の名前が世に響いたわけです。

河井継之助はそれを聞いて是非弟子になりたいと思い、はるばる江戸から訪ねて行きました。河井継之助の旅日記「塵壺」を見ると、最初は「山田」とか、「方谷」とか呼び捨てで書かれています。それが山田方谷に弟子入りして「山田先生」に変わっています。更に、

方谷先生との別れの場面では、川の対岸に先生が見送りに立っているのを見て、継之助は思わず正座をしたとあります。傲岸無礼で人を人と思わぬ人物が、何度も何度も土下座をして別れを惜しんだ。とにかく横柄で誰かに頭を下げることがない男が、そういう態度をとるということは凄いことだと思います。継之助が亡くなる時、備中松山藩に出入りしている商人に、「方谷先生にお伝えください。私は一日たりとも先生の教えを違うことはありませんでした。先生の教えを生涯守り続けました」という遺言を託しています。

継之助の改革

継之助は山田方谷に会って自分なりに会得したものを、いくつか長岡藩で改革実行しました。山田方谷は約 8 年、河井継之助は正味 3 年半の改革でした。長岡藩は 7 万 4 千石ですから、備中松山藩よりは若干多いです。長岡藩の借金は、多い時には 23 万両ありました。安政の改革を果たした時には 14 万両の借金が残っていました。ですから河井継之助が実権を握って改革に着手をする頃の借金は 14 万両、今で言うと 14 億円ぐらいでしょうか。当時の長岡藩の収入は 3 万両（およそ 3 億円）ぐらいですから、借金の額は山田方谷と同じぐらいです。

ちなみにお金の換算の仕方は、同じ 1 両の値段でも、場所や時代によって違います。例えば、先ほど私が備中松山藩の収入を 20 億円ぐらいと言いましたが、或る方さんは約 600 億という数字を出していますし、200 億と換算をする人もいます。換算の仕方によってかなり違います。

いずれにしても継之助は長岡藩の 14 億の借金を 3 年半で返済し、10 億円ぐらいの貯金をしました。貯金額は山田方谷より少なかったけれども、やった内容が凄まじかったわけです。

まず山田方谷と同じで、富国強兵を目指しました。当時は外国が日本に攻めて来て、日本が植民地化されるという状況下にありましたから、心ある者は情報交換をして植民地化されないような動きをしていました。先ほど論語素読で「朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」という言葉がありましたが、これは渋沢栄一さん曰く、「明治維新の志士たちは、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なりを合言葉にして死地に飛びこんで行った」というように志士たちを鼓舞する言葉で、渋沢栄一さん自身もこの言葉を実現したいと思い込んで、高崎城の乗っ取りや横浜の焼き討ちと夷狄の斬り殺し計画を立てたわけです。（この計画は、実行する寸前に思い止まって実現しませんでした）

継之助の行った富国強兵政策は、軍事力の強化です。武装中立主義を唱えました。日本をヨーロッパのスイスのようにしたいと考えました。そのためには軍事力を強大なものに

しなければならないということで、ガトリング砲という機関砲（理論的には 1 分で 400 発撃てる大砲）が日本に 3 基あると聞いて、すぐにそのうちの 2 基を買い取りました。残りの一つは幕府が購入したようです。更に藩内の各家庭に最先端のミニエール銃を一丁ずつ配備しました。大変な節約をしつつ産業を振興しましたから、生み出したお金で武器弾薬を買い集めました。結果として、長岡藩を軍事大国化しました。そして 14 歳から 65 歳までの男性はすべて、鉄砲を持って戦うという国民皆兵制を敷きました。

当時は長州の奇兵隊が有名ですが、そのモデルになったのは山田方谷が作った農民中心の里正隊です。奇兵隊を完膚なきまでに叩きのめしたのが、河井継之助が作った軍隊でした。

他にも、家禄の改正をし、全部 100 石に近づけました。2000 石の人は 500 石に、1500 石の人は 400 石に落としました。20 石・30 石の人は、二倍以上に跳ね上げました。当時の資料では、100 人が泣き 1000 人は喜んだとあります。当然、お金を削られた藩士は継之助暗殺団を作ったようです。国民皆兵制と家禄の改正によって、高禄を食んでいた藩士も老藩士も、同じように先陣に出なければならなくなりました。

国民皆兵制を敷き、給料の革命をし、新しい軍事力を作った。そのベースは方谷先生から学んだ、先ず財政を豊かにするということでした。それには先ず、ものの考え方を改めなければいけない、という先生の教えも継之助は実行しました。

最初に行ったのは風紀の改正です。河井継之助は遊郭が大好きな人間でした。旅日記の「塵壺」には、女郎さんの話が沢山出てきます。そのような人間が遊郭廃止を打ち出しましたから、巷では「かわいかわい（河井）と今朝まで思い、今は愛想もつきのすけ（継之助)」という落首が広がりました。

次に、汚職・賄賂を禁止しました。当時は、付け届けは当たり前でした。継之助はそれを一覧に書き出して、出した人達に返しました。私は数年前にデフォルトをした国々を回りました。ロシア・ブラジル・アルゼンチン・トルコ…経済破綻を起こした国々はすべて、汚職・賄賂の行き過ぎの結果、国が潰れているというのを目の当たりに体験しました。数年前に中国で大きな地震で学校が潰れたことがありました。その時、子供たちの親が「せめて建築費の 8 割も賄賂を取らないで、半分ぐらいで止めておいたなら、子供達は死ななかったのはないか」と涙を流している報道がありました。どれだけ賄賂をとっているのかと感じます。

教育に関しては、寄宿舎を作りました。

他に目を引く点は、軽犯罪者については別に寄せ場を作り、昼間は労働をさせて労賃を

積み立てさせ、夜の 10 時から朝方の 4 時までは家に帰ってよいという自由を与えました。但し、戻らない場合は打ち首です。

このように当時としては驚くような改革を河井継之助はいくつもいくつも行ったわけです。

河井継之助の視点で現代を見る

では、その河井継之助が今の日本を見たらどう考え、どう行動するか・・・。今の時代を河井継之助の視点で見てみましょう。今日のテーマは温故知新ですから、皆さんも自分自身はどうするか考えるきっかけにして戴きたいと存じます。

・軍事の面

現代の日本は、外国から脅かされていると見えます。領土問題でロシア・北朝鮮・韓国・中国、違った形で台湾、こういう国々が目に見える形で攻めています。精神的な面で考えれば、アメリカや中国も日本を攻めています。

チベットという国があります。以前も申しましたが、ペマ・ギャルポさんというチベットの元貴族で、国外に追い出されて、今は日本に住んでいる方がいます。中国がいかにしてチベットを収奪し植民地化していったか、チベットが中国に侵略される過程を、小さい頃から体で感じた方です。その方が、「今、日本もそっくり同じ事をやられている」と言っています。ペマ・ギャルポさんの書かれた本を読むと、最初に中国がチベットに入って来た時は、領土は侵略しない・教育も変えない・宗教にも触れないという約束でした。いざ中国に組み入れた途端に、領土を押さえ、宗教は弾圧し、チベット語を使わせないようにしてしまった。文化も考え方もどんどん中国化していったわけです。最初は親近感を抱かせて、徐々に仲良くなってから本性を現して植民地化していくというやり方です。日本も今、まさにそういうやられ方をしている。チベットが中国化していった時と同じで、中国の領土に組み入れられようとしているように見える。日本とチベットが似ているのは平和主義という点で、武器を持たざる平和主義者は蹂躙され植民地化されて当たり前だ、という内容でした。

河井継之助もたぶん同じような見方をするでしょう。

ご存知のように、スイスという国はもちろん平和主義ですが、民間防衛という小冊子を政府が国民に配っています。それには国民皆兵制という考え方を強烈に出していて、役人や国民に対して自分たちの防衛の役割と動き方が書かれています。国民は有事の際にはこういう事をしなさいという教育訓練を日ごろから受けています。

その点、日本を見るとどうでしょうか。有識者と言われる人たちに、「日本に軍隊が攻め

てきたら 3 日間で占領されるでしょうね」とあっけらかんと言う人が何と多いことでしょう。植民地化されたなら、今ある日本の平和は吹っ飛んでしまいます。

とんでもない事態になると河井継之助ならば考えるでしょうから、まず、国民皆兵制まではいかなくても、徴兵制を敷くでしょう。強制的に兵隊を作り、軍備を強化すると思います。また、機関砲を買い取った経緯を考えると、原子爆弾を作るでしょうね。佐藤栄作さんが首相の時に、専門家による委員会を作り、日本は原子爆弾を作ることは十分可能であるが政治的に今やることは難しいという結論を得て、原子爆弾を作らなかったという経緯が日本の国にはあります。ですから河井継之助であれば、当然原子爆弾を作るでしょうし軍事大国化を図ると思います。

・考え方の面

今の日本は娯楽天国です。終戦後、アメリカの３Ｓ政策（スクリーン・スポーツ・セックス）が見事に花を開いている状態です。河井継之助であれば、当然その辺の取り締まりを強化するでしょう。そして牢屋に入れられる人が強烈に増えます。

これについては先ほど申しましたように、河井継之助は寄せ場を作り、喧嘩・詐欺・恐喝等の軽犯罪者を放り込んで、頭を三分刈りにし、変わった色の服を着せて、誰が見ても囚人だと分かるようにしました。そこで彼らに手に職をつけさせて、更生をさせました。今の刑務所でも同じようなことをやっていますが、違う点は、夜 10 時から朝の 4 時まで自宅に帰っても良いという自由を与えています。ただし、4 時までに帰らない者は斬首の刑に処すことを布告しました。実際に、時間に戻らなかった囚人二名は打ち首になり、これが見せしめになって他の囚人たちはルールを守るようになったようです。やはりルールというものは、守らない者を厳罰に処さないと役に立たないものだと感じます。

河井継之助が今の時代にいたら、刑務所にいる人達を開放するかどうかは分かりませんが、似たような事はするだろうと思います。

・財政の面

軍事大国化にしてもそうですが、色々な事を行うためには財政事情が好転をしていないとどうにもなりません。何度かお話していますように、日本が経済破綻した場合にＩＭＦがどういう事をするか、2001 年に自民党の当時の大蔵大臣が国会で答弁したものが残っています。それには、公共事業の凍結、消費税を 20%にし、国家・地方公務員の人数 30%カット・退職金の全額カット・給料の 30%カット・・・といったことが書かれています。

おそらく河井継之助も同じ事をするでしょう。家禄の改正などはまさにそうです。江戸時代の幕府や各藩の施策をみても、家禄の革命をしたのは長岡藩だけでしょう。

今朝の日経新聞に、全国の特殊法人や独立行政法人などの給料が高すぎるという記事が

ありました。一番高いのは日本中央競馬会で、国家公務員の平均の給与水準を 100 とした場合 144、金額にすると 1016 万円だそうです。1016 万円の年収の中央競馬会の人達は、まず給料は半分でしょうね。国家・地方公務員が 700～800 万とすると、400 万円くらいにすべきでしょう。

少し前に『年収 300 万時代が来る』という本がかなり売れました。今や年収 100 万 200 万円台が珍しくなくなっています。それよりも生活保護を貰った方がよいというおかしな逆転現象が問題になっています。３．１１の大震災で職を失った人が沢山出ましたが、実際にシムックスが現地に行って求人を募っても、なかなか人が集まらない。何のことはない、皆、失業手当金や助成金を貰い、それが終わると生活保護を貰うので、自分が氣に入った仕事がなければ勤めないのです。もちろん真剣に勤めたいという人も沢山いますが、そういうことを半年も 1 年も続けていれば、支援金を貰って当たり前という感覚になりますよ。支援・援助は人の心を狂わせます。木内信胤先生は「援助というのは相手を侮蔑している。だからよくない」と言われました。どこかで日本は狂ったと思います。ただお金を貰うのでなく、対価を払うべきだと私は思います。

労働についての考え方、日本は見直すべき時期にきていると思います。外国と比べて、今の日本人の給料は高すぎる。なのに、もうちょっと欲しいと皆が思っています。外国に行ってみると、本当に少ない給料で生きている人が沢山います。ブータンに行った時は驚くほど少ないお金でやり繰りしていましたし、ロシアでお会いした大学教授は３つの仕事を掛け持ちしないと食べていけないと言っていました。給料が少なくて食えないということが、今の世の中当たり前になってきています。

日本は豊かで、ものが溢れています。ものの値段も、先日食べた牛丼一杯が 280 円で、コーヒーやさんに行くとコーヒー一杯 400 円。やはりどこかおかしいのではないかと感じます。日本はどこか歪みました。狂ったと思っています。お金の価値が変わったと思います。

・風紀の面

お金の価値観が変わると、汚職・賄賂が充満します。汚職・賄賂が少ない国であればあるほど、良い国だと思います。賄賂が広がれば広がるほど、国が潰れてきます。デフォルト（借金の踏み倒し令）になる。

汚職・賄賂が蔓延し日本がおかしくなる前に、継之助であればいくつも手を打つでしょう。風紀紊乱の取り締まり強化をするでしょう。それから継之助は賭博禁止をしました。賭博の禁止に関して面白い話があります。河井継之助が渡世人の格好をして賭場に行き、遊んで帰る。その翌日には賭場の親分を呼び出して問い質す、という事を何回かしたら博

打は無くなった、と記録に残っています。富くじも嫌いだったようですから、今でしたら宝くじも廃止するのではないかと思います。

・教育の面

日本の行く末を考えると、根幹は教育にある。長岡藩は継之助が小千谷会談で官軍側と交渉し、談判決裂をして戦になり焼け野原になりました。その時に長岡藩の支藩から米百俵が送られて来ました。その時には既に継之助は死んでおり、友人の小林虎三郎が長岡藩の大黒柱になっていました。小林虎三郎はその米を食べずに教育に使いたいと言い、決断を下しました。その結果として、長岡には教育を重視する考え方、米百俵の精神が根付いていきました。ですから教育の重要性は、河井継之助から小林虎三郎に繋がっていったのだと思います。

そういうことを考えるたびに、学縁の大切さを感じます。私たちだけがここで単に習っているのではなくて、皆様ご自分の学縁を考えてみるとよい。ここ足利学校は日本最古の学校で、孔子の像があり楷の木もあります。湯島聖堂も同様です。そういった横の繋がりを考える。そして今、話をしている深澤はどこで学問を習ったのか…縦の繋がりを考えるとよろしいでしょう。私は石川梅次郎先生に教わりましたから、石川梅次郎先生→山田済斉先生→三島復先生→三島中洲先生と繋がります。三島中洲先生は二松学舎大学を創って天皇陛下を教えた先生です。三島中洲の同学・同門は河井継之助。その師匠は山田方谷。山田方谷は同学で佐久間象山がいます。二人の師匠は佐藤一斎です。明治維新の志士たちはほとんど佐藤一斎先生の弟子・孫弟子にあたりますから、明治維新のものの考え方のベースは佐藤一斎でした。ですから我々は決して一人で学んでいるのではなく、学縁に繋がっていると思って戴くとよろしい。

今、現時点での教育を考えるとどうでしょう。日本の教育はこれでよいでしょうか。学問でも農業でも何を学んでいても良いのですが、とにかく学ぶという意識は凄まじいものがあります。それがありさえすれば、いつかは花が開くと思っています。

お時間が参りました。最後に、河井継之助なら今こうするだろうということを、大まかに申します。皆の給料をバッサバッサと削る。官僚を半分にし、政治家も半分にする。政党助成金なんてとんでもない。増税もとんでもない。減税をしなければいけません。知らない間に、所得税もごまかされて増税されています。ですから継之助なら、今の政府とやっている事と正反対の事をやるでしょう。たぶん急激に劇薬が効いて、日本は急展開すると思います。ただ、そういう人物は今の日本にはいません。そういう人物が生まれて出てくるのに、あと 4，5 年はかかると思っています。ですからそれまでは我慢して自分を磨く

ことに集中していったがよかろうと思います。

今、大きな危機が日本に来ています。３．１１のような災害がまた起きると思います。鳥の強毒新型インフルエンザも起きるでしょう。舵取りを間違えると、日本に外国の軍隊が入って来るかもしれません。サイバーテロやサイバー戦争も起こり得るでしょうし、そうなって現実に日本の領土に攻め入ってくるという事もあり得ます。日本で内乱が起きるかもしれません。現に沖縄の独立を中国が煽っています。

日本が日本でなくなる危険性がかなりあると思っています。土壇場まで来て、初めて反転するだろうと思いますが、かなり際どいと感じています。今、そういう危機感を持って政治をしている人がどれだけいるでしょうか。バッジなどつけていなくても政治はやれると思っています。

世界は今、資本主義・共産主義が終わり、次に来るのは知足主義です。ぜひ自分を磨いて、足るを知る…ほどほどで行こう・欲張らないという考え方を広めてほしいと思います。これからの世の中はどうなるのか、自分の目で見て・自分で考え・自分で実行する。そういう転機に来たのだと自覚をして、一歩ずつ踏み出していきましょう。

本日はどうも有難うございました。